

行くかわの流れ

はたえずして

しかもとの

水にあらず

学年

三年

氏名

課題解説

移り行く

約800年前に書かれた鎌倉時代初めのずいひつ『方丈記』の有名な書き出しです。川はつねに流れている・・・と、当たり前のことを言っているのですが、なにか深い思いが伝わってきますね。「淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし」とつづきます。うたかたは泡のこと。泡も、できては消えて、そのままということはありません。物事はどんどん変わっていきます。人の一生も同じですね。

『方丈記』——中世文学を代表する随筆で作者は鴨長明。歌人としても活躍しました。『方丈記』は和漢混交文で書かれ、移り行くものはかなさを描いた無常観の文学とも言われます。

角川学芸出版

「えんぴつ文字練習帳（中級編）」所収